

昭和興産

昭和興産はアジアでの事業を拡大している。とりわけタイが自動車関連を中心に好調で、2012年末には日本人スタッフを2名から3名に増員した。日本企業と現地OEM先を効果的にマッチングさせるビジネスも進展しており、今期は洪水の影響があった前年に比べ現地通貨ベースで粗利益が2割以上増える(沢瀉一雄社長)状況にある。昭和興産は「躍進80計画」(創業70周年からの新たな挑戦)をスローガンとする3カ年の中期経営計画を今年度(13年12月期)からスタートした。「日本とアジアで活躍する企業への進化」を基本方針とし、主要取引先との強固な関係の構築、アジアでの事業拡充、新規アーマおよび商材の発掘・拡販、事業構造の変革推進の4項目の重点施策を強力に推進する。

今年度の業績は売上高、利益とも前期並みと

マッチングビジネスも進展

なる模様。上期(1~6月)は前年同期を割り込むペースで推移したものの、下期から徐々に回復傾向を示し、10、12月は前年より上乗せできるとみる。

海外ではタイ(バンコク)、上海、香港の3現地法人をベースに事業を展開している。そのうち昭和興産タイランドは化学品や合成樹脂を主力製品とし、電気・電子材料、産業資材関連などを取り扱い、自動車関連を中心に実績を積み重ねてきた。昨年末から常駐しているのはケミカルに精通した日本人スタッフで、「将来的には情報電材のスタッフを送り、日本と同様に各分野のスペシャリストを配置する体制にしていきたい」との構想も浮上している。

